

TU MAGAZINE

10代のための音楽ガイド

vol.2



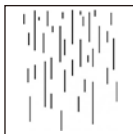
inner space lab

Metallica / MASTER OF PUPPETS



まさにスラッシュメタルの金字塔。近年盛り上がりみせるメタルコアシーンのルーツはここにあると断言できる。Justice For All や Black Album など他の名アルバムが多い Metallica だが、名前だけでも知っている人はこの作品が入門編として聴くのがよいだろう。良メロ・ヘヴィさ・速さの三拍子揃った完成度の高さはもちろん、Vo / Gt ジェイムス・ヘッドフィールドの高速ダウンピッキングが任意の一言。(上田)

Go Go Penguin / V.O.2



イギリスマンチェスター出身のジャズトリオ、Go Go Penguin の傑作。ピアノ・ウッドベース・ドラムというオーソドックスなジャズの編成だが、エレクトロミュージックやポストロックのような音楽をジャズを通して表現し、はっきり申し上げると、良さを通り越してもうキモい。Radiohead よりしく UK の音楽シーンは異なるジャンルをクロスオーバーさせて新しいサウンドを作るのが巧みである。(上田)

東京塩麹 / You Can Dance



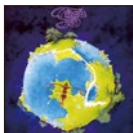
音楽通なら必ずチェックする 8 人組・人力ミニマルミュージックバンド、東京塩麹の 2nd アルバム。ちょっと変わった音楽を聴きたいと思っただけのひねくれ者はもちろん、シンプルでダンスミュージック好きにもヒットする 1 枚。綿密に構築された「音の配置」が重なりあることで「音楽」に成ることに気づかされる。ちなみにメンバーのタカラマハは横須賀中央で飯島商店というチャラーを運営してる(住んでる)。(上田)

Skillkicks / THE BEST



地下のグルーブさせている変態ヒップホップバンド、Skillkicks のキャリアをまとめるベスト盤。70 年代 NY ブロックスで発祥したヒップホップは 2010 年代入ると東京のアンダーグラウンドシーンで突然変異。あえて「リズムをずらす」ことでグチャグチャなビートを鳴らし、しるるビートではないのに、思わず身体が揺れてしまう凄さ。ヒップホップ進化の最前線。まさに Tokyo No.1. Dope Shit。(上田)

Yes / Fragile



クラシックとロックを融合・複雑化した音楽「プログレッシヴロック」の代表バンド、Yes の名作。分かりやすいポップさなんて一切無いの音楽オタク向け。曲も長いし、分かりにくい、でもじっくり聴いてるうちに「あれ、なんか凄いな...」と中学生のころ衝撃を受けた。ジョジョの奇妙な冒険 ED や動画でバズった「To Be Continued...」の曲、「Roundabout」が収録されている。分からなくても聴くべし。(上田)

Letting Up Despite Great Faults



US カリフォルニア出身のエレクトロシューゲイズバンド。エレクトロとシューゲイズを組み合わせた音楽って実はたくさん存在していますが、その中でも絶妙な「バランス感」を持っている数少ないバンドだと思います。そして何よりメロディがずば抜けて良い。アートワークも含めて期待を裏切らない、トータルバランスが本当に素晴らしいバンドです。10 代の時に会っておきたかったバンド No.1。(久下)

スーパーカー / HIGHVISION



10 代の時に 1 番聴いていた日本のバンド、スーパーカー。デビューから解散までの 8 年間でリリースされたアルバムは、時期によって作風がだいぶ違うので、どの 1 枚を選ぶか悩みました。本当はどのアルバムも聴いてもらいたいのですが、シューゲイザーからエレクトロに向かっていく大きな分岐点のアルバムだったと思う「HIGHVISION」を選んでみました。(久下)

OASIS / (What's the Story) Morning Glory ?



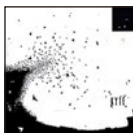
ブリティッシュロックの名盤中の名盤。僕が改めてここにどうのこうの書く必要はなにもないです。もしまだ聴いていないという人がいたら、必ず一度は聴いてもらいたい。世帯も国境も超えた名曲を体感できる。僕は中学生の時にこのアルバムを何度も何度も聴いて、曲作りを学んだ原点。(久下)

The Postal Service / Give up



Death Cab for Cutie のギバード(シアトル在住)と Dntel のタンボレロ(ロサンゼルス在住)が DAT テープを郵送しあって制作していたことが、The Postal Service (郵政) というユニット名の由来。この時点でセンス高過ぎます。10 代の頃、エレクトロというジャンルに入り込んでいくきっかけくれた思い深いアルバムです。エレクトロポップを普段聞かない人にも迷わずオススメできる 1 枚。(久下)

kyte



UK レスター出身のポストロックバンド。もうただただ美しいサウンドです。M1 の「Planet」から 7 分を超える曲なんですが、そんな気にならないくらい入りの没入感。M2 の「Boundaries」で kyte の世界の深いところまで落ちていきます。こういう音楽をルーツに 10 代の時からバンドやってみたかったので選んでみました。(久下)

ずつと真夜中でいいのに。 / 潜潜話



2018年6月始動、詳細がほとんど明かされていないユニット。YouTubeでバズった「現代の音楽の1つの在り方」を感じる。透き通った歌声に荒々しく繊細な気持ちの良いピアノ、物語性の強い楽曲をしっかりと伝える歌唱力や突き刺さってくるハイトーン。とてもバランスが良くワワワさせてくる。気づいたら毎日エンドレスで聴いていた。まだ聴いたことが無いなら必聴。MVも併せてチェックしてほしい。(よしかず)

RADWIMPS / RADWIMPS3〜無人島に持っていき忘れた一枚〜



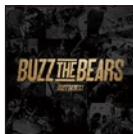
幼少期から音楽が好きだった自分がバンドをやりたい、よりバンドサウンドを好きになる影響を与え、今でも変わらず自分の音楽の根本になる彼ら。そんな彼らの3枚目、メジャー1枚目のこの1枚。出会いとは2ndだったがここはこちらを。独特の世界観の歌詞を時には重み掛けるように、時には優しく寄り添うように、そしてその言葉の魅力を最大限引き出す楽曲とプレイヤー。彼らがいる時代で音楽できている事が嬉しい。(よしかず)

でんぱ組.inc / WORLD WIDE DEMA



俺の全てを捧げました。たくさんの人と出会ってたくさん笑って泣いてを共に過ごしたアルバム。アイドルを普段聞かないという人なら尚更聞いてほしい。実は楽曲のオリジナリティがエイゲルが高く、神曲が多い。ジャンルレスなアイドル、1つのジャンルに特化したアイドル等色々ある中できっかけになればいいなと思う。でんぱ組としてのジャンルを確立した1枚。この当時のこの6人だからこそその雰囲気、出会ってくれたら嬉しい。(よしかず)

BUZZ THE BEARS / BUZZ THE BEST



Vo. 越智さんの哀愁ある歌声、圧倒的なメロ、心揺さぶる歌詞その全てが混ざり合う BUZZ THE BEARS。LIVEではキスが泣きじゃくりながらモッシュやダイブが多発する。オスメメロが多発するが故にベース3層をここでは紹介。是非歌詞の一言一言を噛み締めながらじっくり聞いてもらいたい。心臓を鷲掴みする感じを覚える。気づいたらあなたも泣いているかもかもしれない。(よしかず)

OVER ARM THROW /



横浜の大先輩 OVER ARM THROW。こんなにカッコ良いバンドに近くにいる事を知ってほしい。このバンドに関して余計な説明はいらないかと思う。ハイトーンボイスなおしゃれな感じでという今のブームとは真逆にいると思えるOAT。だからこそ今もう一度熱気あるんだか汗かさいようなこのアルバムを聞いてほしい。(よしかず)

マキシマム ザ ホルモン / ロッキンゴ殺し



“白帯で黒帯に勝つ”マインドを叩き込んでくれた1枚です。1 腹ゴ (ホルモファンゴの呼称) としては最近のアルバムに比べるとポップとミクスチャーの比率がほぼ逆転していることも魅力のひとつ。燃えるような初期衝動全開のギターリフ、一見(一聴?)他言語にしか聞こえない歌唱法。そして全員超歌えるということ等一見習うべき点が沢山あります。僕が人生で1番好きなバンドだし何なら人生そのものです。(どすこ)

KING BROTHERS / THE FIRST RAYS OF THE NEW RISING SUN



兵庫は西宮のロックンロール / ブルースバンド。ジャバーズロックンロールの荒々しさすらある力強いと weezer のブルーアルバム (これも必聴) を彷彿とさせるようなエモーションさ。ギターボーカルとギタースクリームがそれぞれの声質に合っているとします。(現在活動していない) ギタースクリーム担当のマーヤ氏がボーカルをしていた“N” 原川ボーイズ”というバンドも要チェック。(どすこ)

Creepy Nuts / たりないふたり



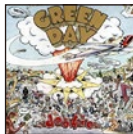
日本一3連覇のバトル MCR- 指定と昨年世界一になったターンテーブルリスト DJ 松永によるHIPHOP ユニット。一度聴いてみればすぐに解ると思いますが、想像しているラッパーとは全くロック寄りの詞が多く聴きやすいと思います。語を聴く以外にもユーモアのある言葉遊びに溢れていて中々面白いです。中でもタイトルチュームである「たりないふたり」の歌詞は僕のような比較的オタク寄りな人間の学生時代に確実に重なると思います。(どすこ)

EGO-WRAPPIN' / Night Food



こちらも2人組。昭和歌謡やジャズ、キャバレー音楽などをクロスオーバーさせた音楽。ボーカルの中島陽恵の並外れた歌唱力にギタリスト森雅樹の絡みつくようなフレーズ。パクパクのホンレーンとの相性の良さも魅力のひとつですが、個人的にライブのMCがコッテコテの大飯弁のが好きです。幼少期にカーステレオからこのアルバムを聴かされたので正直今でもバリバリ影響受けてます。(どすこ)

Green Day / Dookie



カリフォルニア発パンクバンドグリーンデイズの3rd アルバムにしてメジャーデビューアルバム。“Dookie (う○ち)”と名付けられたタイトルとは裏腹に2011年には1500万枚を売り上げる程のヒット作です。実は僕は中学生の頃にギターからベースに転向していて、ギターで最初に弾けるようになった曲が7曲目の「Basket Case」なのです。コピーしやすさも音楽に触れる上で大切な事だと思います。来日公演楽しみです。ステイバンク。(どすこ)

俺のバンド論

筆者 久下淳史

10代に向けたディスクガイドの一部を頂いて、「俺のバンド論」というのを書かせてもらっていますicelandblueのVo&Gt久下(くげ)と申します。生まれも育ちも横須賀で、たくさんの素敵な先輩・後輩アーティストと出会い、色々と教わりながら、縁もあって10代の頃からレーベルの元で音楽を作らせて頂きました。そんな僕の独断と偏見、そして経験にはなりますが、こういう意見もあるんだなといった感じで読んでもらえたら幸いです。

たくさん遊ぶことの大切さ

僕が10代の頃、寝ても覚めてもバンドのことはばかり考えていて、バンドのためにバイトして、遊ぶ時間を削って曲作りと練習、すべてはバンド中心の生活をしていました。それがバンドで上を目指すために必要不可欠だと思っていたから。だけど、今思えばこれはちょっと違ったかな、と思います。

どの分野に関してもそうですが、**面白いなって感じさせてくれる人は、圧倒的にいろんなことを経験している人が多い**。音楽に置き換えるならば、バンドのことはばかり考えている人より、友達とたくさん遊んで、いろんな景色見て、たくさんの思い出と感情を経験している人の方が、魅力的な

音楽を作り出せていると僕は思います。

なので、たくさんの音楽を聴くとか、たくさん練習するとかはもちろん大切なことだけど、どうかたくさん遊んでください。それがこの先、音楽を作り続けていく上で大切な経験になると僕は思います。

自分だけの武器を見つける

そして10代のうちに、自分の音楽的なキャラクター(武器となる部分)に気づけたらとても強いかと。

僕はボーカルで曲を書いている立場なので、そこからの目線になってしまいますが、声質だったり歌い方、言葉選びだったりメロディの癖など、どんな些細なことでも構わないので、自分の武器となる部分に気づいて、とにかくそれを磨き上げてほしい。苦手なことやできないことを克服しても、あくまで普通にたどり着くだけで周りからは注目されません。

まずは誰にも負けない(もしくは負けない)と思える武器を探してみてください。そしてその武器をバンドメンバー同士で共有できれば、なお良いかと。曲作りやステージの見せ方、アートワークなどを決めていく上で大きな要素になってきます。

長々と自論を書かせて頂きましたが、バンドをやっていく上での課題や疑問、そし

てヒントはライブハウスにだいたいあります。新型コロナの影響でライブハウスの偏った報道がされていますが、バンドマンにとって間違いなく大切なライブハウス。落ち着いたらまたライブハウスに通ってみてください。そして横須賀からかつこいいバンドをたくさん輩出していきましょう。

久下淳史

icelandblue Vo / Gt

神奈川県横須賀市出身。

学生時代に4ピースロックバンド、CONCEIT OF BIRTHを結成し、その頃から全国ツアーや音源リリースなど精力的に活動。解散後、2014年2月にicelandblueを結成し現在まで自主制作CD4枚・配信限定ミニアルバム1枚をリリースし、リリース毎に全国ツアーを実施している。

好きな食べ物は焼き鳥。

SELECTOR COMMENT

上田大輔 (inner space lab 代表)



あえてポップ・ミュージックは一切無し。ちょっと偏屈なおたくセレクトになってしまいました。まず他のセレクトの皆さんのレコメンドを聴いてから、オタクゾーンを代入してみてください。Twitter @innerspacelab

よしかず (THEリマインズ / Docking Dog)



自分の音楽に強い影響を与え人生を変えた盤の一部分から、あまり他が選出しなさそうな所で選びました。
@yszk_reminds

久下淳史 (icelandblue)



僕が10代の時に聞いていた音楽と、10代の時に会っておきたかった音楽を選んできました。

Twitter @kugeatsushi

鹿嶋“dosko” 渉 (Raymond)



出来るだけ各種サブスクで聴いて、そのアーティストの中でもクラシック感のあるアルバムをセレクトしました。聴けば何からしを得られると思います。Twitter @watary4